

小丸山遺跡 弥生時代住居跡か

今後の調査に注目



住居跡が発掘された小丸山遺跡

村教育委員会は、縄文時代中期以降と思われる駒込地区の小丸山遺跡の発掘調査を六月二十四日から本格的にはじめたところ、弥生時代のものとみられる住居の遺構が発掘され先住民の生活や村の歴史

の解明に大きな手がかりがつかめるのではないかと注目されています。小丸山遺跡は、駒込地区の東側にある竹林で、近く横越村農協が同地に野菜集荷センターの建設が予定されているところから急ぎ、発掘調査が行われたもの。

駒込地区は、新砂丘と呼ばれる県内で最も内陸部にあり砂丘地で、今から四千数百年前のものとみられる縄文時代中期以降の土器や石おの破片が多く出土されたり、土師器(はじき)、須恵器(すえき)なども発見されており同地区は、県の埋蔵文化財包蔵地域として指定、いわゆる「遺跡の宝庫」となっています。

発掘調査は、安田町の家庭性(そうな)のことも知れませんがそれは消極的ではなくむしろ自主独立の精神で展開を図ろうとする村民の意志がそうさせたものと見るべきでしょう。歴史を振り返ると、災害と

横越村

明治三十四年に横越村、沢海村、木津村、二本木村、小杉村の五カ村が合併して、今の横越村が誕生しました。

今年には数えて丁度八十年を迎えます。いま村では、合併八十年を記念する資料の編集、祝賀事業等の準備を進めています。

は八十年間いささかの変動もなく今日に至っています。このことは一つの不思議とさえいわれています。

今日変貌発展する村の様子、急激な変化に惑わされず、まとまりのよい伝統的な村民

温故知新 合村八十周年

の戦いに、また教育、産業の振興に幾多の先人が困難を克服されて郷土横越村を築かれました。

今日変貌発展する村の様子、急激な変化に惑わされず、まとまりのよい伝統的な村民

の戦いに、また教育、産業の振興に幾多の先人が困難を克服されて郷土横越村を築かれました。

新農業委員決る

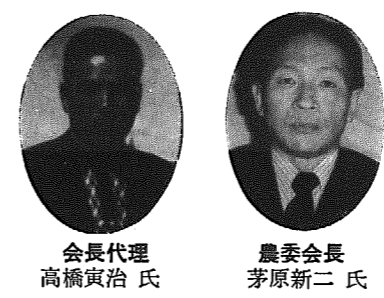
若い新人続出 行動力に期待

会長代理 高橋(寅)氏を再選

改選後、初の農業委員会総会が七月二十五日開かれ、会長等を選出する役員構成が行なわれた結果、会長に茅原新二氏が、会長職務代理に高橋寅治氏が、指名推せんされ満場一致で選出されました。

このより先、任期満了による第十一回農業委員選挙は、立候補者が定数(選挙定数十九名)に留まったため、無投票で改選されました。

選挙(昭53年)と同様新人七名が進出。平均年齢では前回より〇・六才も若返る四十六才と文字どおり脂の乗り切った働き盛りといえまじやう。殊に今回は無競争とはいえず三十才代が三名(現一、新二)に増えたことが目立ち一段と行動力が期待されます。



会長代理 高橋寅治氏 農委会長 茅原新二氏

新農業委員

(選挙委員・届出順)

氏名	年齢	党派	職歴	住所
吉井 興一	58	無所属	現新	二本木中上
神田 信雄	45	〃	現新	横越上
阿部 兵一	47	〃	現新	駒込下
村木 成生	40	〃	現新	二本木下
佐藤 輝男	35	〃	現新	海津内
金子 甚一	46	〃	現新	根谷中
高橋 兵一	52	〃	現新	川根中
遠藤 三郎	45	〃	現新	小沢中
市村 千晴	44	〃	現新	沢海越中
佐藤 登一	40	〃	現新	横越中
石井 起也	37	〃	現新	木津上
高橋 幸隆	50	〃	現新	小横上
宮沢 熊一	50	〃	現新	小横下
茅原 新二	53	〃	現新	海津中
田村 唯栄	48	〃	現新	海津下
高橋 恒男	56	〃	現新	海津中
伊藤 利明	44	〃	現新	海津中

戦歿者慰霊祭

三百余柱の冥福祈る

—平和と繁栄を感謝—



戦歿者の冥福を祈る遺族

代理(塚野福祉所長)をはじめ、市村会長の挨拶に続き来賓による追悼の言葉と村内各寺院僧侶の読経がしめやかに進められ、御霊の冥福を祈る焼香が捧げられました。

横越村連合遺族会(会長市村正作)は、七月二日宗賢寺(横越下)で戦歿者慰霊祭を開き、御霊三百柱の追悼法要を行ないました。

おしらせ

村職員募集 給食調理員

申込 八月十七日まで

- 一、職種及び人員 給食調理員(若干名)
- 二、受験資格 昭和二十六年四月二日以降に生まれたもので中学校卒業程度の学歴を有し、調理士免許を有するもの
- 三、応募締切日 昭和五十六年八月十七日(月)午後五時必着
- 四、願書及び添付書類 〇願書(役場受付に用意) 〇履歴書(写真添付、自書ペン書、略式でないもの)
- 五、申込先 横越村役場総務課へ四の関係書類を添えて申込むこと
- 六、採用試験 〇成績証明書(最終卒業校) 〇健康診断書(最近一カ月以内のもの) 〇資格証明書
- 七、採用予定年月日 昭和五十六年九月一日
- 八、携行品 筆記具、昼食
- 九、試験科目 横越村役場 一般教養(専門知識含む) 作文、面接(口頭試問)
- 十、試験日 昭和五十六年八月二十三日(日)午前八時三十分(受付)

つ確認されましたが、残念ながら住居跡の半分が舗装道路のため、全体を把握するまでになりませんでした。しかし、弥生時代の住居跡が下越地方では初めてといわれ、注目されているが、縄文時代の土師器も出土されているところから同地に先住民が縄文時代から弥生時代に連続して住みついたか、調査の解明に注目したいところです。

村教委は今後の調査について、今回の調査は、大きな収穫を得て終了した。この近くに道路改良工事の計画もあり、第二次調査として県の協力を得て行なうこととしています。

家屋調査にご協力

役場税務課では、七月下旬から新築や増改築のあった家屋の实地調査に入りました。

この調査は、固定資産税の基礎となる、評価額を算定するためのもので、家屋の主体構造や付帯設備、及び各部屋毎の内部仕上げ等の状態を見るため、室内に上らせていただきます。

なお、留守のため調査ができない方には、連絡簿をお届けします。ご手数でも後日調査のできる都合の良い日時を、税務課までご連絡ください。

昭和五十六年八月二十二日(日)午前八時三十分(受付)